

## 一人の時

山田真砂年

みのししを喰うて秩父の夜なりけり

冬薔薇老人の乗るキャデラック

返り花一人の時に気づきけり

冬草のあたり日差しのありにけり

浅間嶺のまぶし落葉の吹雪をり

凧や送電線は天の罅

冬の坂奥津城の横通りけり

山の影枯野にのびて吾を吞む

冬天に隙あり鳥の過ぎりけり

ハンバーガーにコーラ襟巻き外さざる

緋月流す風のあり冬の雲

枯芝に群れて雀のまるびをり

(一部「俳句」と重複)